

の作品に自分で驚き、友人や教師からも評価されていくことで新しい目が開かれていきます。

中学の美術カリキュラム

茗溪学園では中学の1・2年が全員必修で美術を学び、3年から高校2年までは芸術3科目（音楽・美術・書道）から1科目選択して学びます。すべて週2時間です。そこで1・2年のうちに絵画・デザイン（染色や工芸を含む）・彫刻の基礎を身につけさせ、3年生以上でたとえ美術を選択しなくても必要なときには自分で表現できるように美術的表現力のSkillを習得させます。

中学1年

1年生では上述の「見ないで描く」鉛筆画・油彩「自画像」の他に絵画分野では「ホタテを描く」アクリル画で混色を学びます。デザイン分野では「創作四字熟語のレタリング」アクリル画と土器制作、彫刻分野では塑像「人体をつくる」粘土直付などで表現方法の幅を広げていきます。



静物画：生徒作品・「全日本学生美術展」入賞

中学2年

2年生では油彩では「モチーフを描く：静物画」で、構図の取り方を学んでいきます。自分の描きたい対象をどう切り取り、画面の中に入れ込んでいくのか、その入れ方を学びます。あと、1年生で学んだ立体感をさらに発展させ物と物の関係、どちらが奥にあるかや床との関係などの見方を知ります。デザイン分野で



は「透視図法」アクリル画で配色を学び、切り絵のウチワを制作します。また「モノクロの空間表現」で法則や手法を使えば画面の中に自由に立体空間を作り上げることができることを学びます。彫刻分野ではレリーフで半立体の木彫と野菜の模刻をつくる塑像を制作します。

中学3年

選択となった3年生では油彩で風景画を描き、ここまで学んだ明暗を用いた「立体感」・「構図」・「物と物の関係」に加えて遠近感をどのようにして表現すればよいのかという「空気遠近法」を学びます。これで油彩を描く一通りのSkillが身につきます。その他の分野では「文字のデザイン」アクリル画や陶芸、シルクスクリーン（孔版）などを学び、木彫では「手で見る」という課題に挑戦します。これは彫刻を触って感じさせるという、立体への意識を触感を用いて表現させるものでなかなか野心的な取り組みです。

今回の記事は本校美術科主任で自身も日本画家の水見剛先生の話で田代が構成し直したものです。

次回「高校の美術カリキュラム」につづきます。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL. 029(851)6611 (代) FAX. 029(851)5455

www.meikei.ac.jp

田代 淳一（たしろ じゅんいち）

茗溪学園中学校高等学校 教務部長・教員（化学）



茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。

「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。

海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。



「見る」スキルをトレーニングする、中学から高校までの連続したユニークな美術のカリキュラムの紹介です。

アメリカの私立の幼稚園の入試に「見て、グループに分ける」スキルの評価があります。同じもの・違うものを見つける力は、物事の視覚的観察から抽象的観察へと広がる基礎的な力と、考えられています。

世間の常識では分けて考える、「美術の力」と「知的な力」のつながりを、スタディスキルの視点から同じものと捉え、6年間一貫教育の中で身につけさせていく。これは茗溪学園の教育のユニークさの一つですね。

これで、学校の中のいたるところに大小の数多くの美術作品が、所狭しと並べられているわけが分かりました。